

週刊新社会

4月30日



2019年号外
野田市版

振替 00140-0-149727 1ヵ月 600円 1部 150円 41円
http://www.sinsyakai.or.jp/
発行所：新社会党 E-mail/honbu@sinsyakai.or.jp

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三辰工業ビル3F Tel. 03-6380-9960 Fax. 03-6380-9963

新社会党は議員候補を公募中。選挙ノウハウをはじめ、一緒に活動します。

自治体選挙で新社会党県内議員3人当選 身近で期待される議会に全力挙げる

統一地方選挙が終わって新社会党は千葉県内でわずか3人の候補者だったが全員当選。しかし、全国的に投票率が下がり続け、27日にはNHKが「崖っぷち!?わがまちの議会」を放送した。

習志野市議会で2期目を目指した藤崎ちさこさん(62歳)は2897票で2位当選。前回は1659票13位だったが1238票も増やした。毎週3駅で議会報告を配り続け、公団団地の自治会長を引き受けるなどの努力の成果が現れた。

同じく2期目をめざした横芝光町の秋鹿幹夫さん(41歳)は697票で7位当選(前回592票14位)。家族との時間が取れないと最後まで立候補するかどうか悩んだが、

毎回議会報告の新聞折込や成田空

情報発信力の弱い自治体議会 実は市民生活に最も影響が大

NHKスペシャルは下がり続ける投票率が示す自治体議会に対する主権者の無関心を深刻にとらえた。きちんと審議しているのかと感じる「なれあい」議会や相次ぐ不祥事の現実の中で行ったという全国3万2千人の自治体議員対象の大規模アンケートを紹介しながら、

港拡張に伴う騒音問題などでがんばり、支持が広がった結果だ。

そして佐倉市では現職の冨塚忠雄議員が引退する中、新社会党の公認議席を守れるかどうか厳しい選挙だったが、2回目の挑戦で稲田敏昭さん(65歳)が1420票、25位で議席を継承した(今週号本紙4面でも紹介)。

ら、実は身近な生活課題は議会の議論が大きく影響されると報道。

保育料や学童保育料、子ども医療費を始め、多くの福祉サービス水準、国民健康保険料や介護保険料、ごみ袋、道路や排水、駅等のバリアフリー化……。間違いなく住民の暮らしや利便性を左右するのだが存在感がない自治体議会。

なんといっても発信力が乏しすぎる。三重県議会や広島市議会のように記者会見する議会は全国にいくつあるだろうか。議会が政策提言する議会もまだまだ少ない。

野田市議会も市民との公聴の機会となる議会報告会や意見交換会を開こうとしない。全戸配布の議会だよりは可もなく不可もなくでは興味をそそらない。

議会では議員は質問するだけで、行政側の反問権はなく、議員間の議論も少ない。これでは単に数がものをいう世界でのセレモニーに見えてしまう。

四日市市議会の文書質問にまなぶ

野田も注目される議会に検討開始を

野田市議会もかつて視察した四日市市議会は議会改革で先進議会。野田にはない議会基本条例に基づいて、一般質問水準の「文書質問」制度がある。昨年一年間では3人の議員から7件の文書質問がなされ、今年に入ってもすでに1件行われている。

3ヶ月に一回の定例議会ですら質問できない議員にとって、問題や課題を感じたらすぐに質問できるのはとても良いことだ。野田市

議会はたしかに議会基本条例はつくれなかったが、一つひとつ改善していこうとなっている。

起こってはならない少女虐待死事件の後、議会としても全員で検証や再発防止策をつくらうとした。残念ながらその特別委員会は流れてしまったが、改選からそろそろ1年が経過する。

いい意味で注目される議会になるために、額を寄せ合って検討する時期だ。